

道徳科 学習指導案

平成30年6月9日（土）学習指導Ⅳ（5の1教室）4年1組 指導者

I 主 題 正しさに向かう力

II 考 察

1 主題観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度

①知識・技能

正しいと判断したことを自信をもって行う
ことの大切さについての理解

②思考力・判断力・表現力等

正しいと判断したことを自信をもって行う
ことについての自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A 主として自分自身に関すること

1 善悪の判断，自律，自由と責任〔第3学年及び第4学年〕

正しいと判断したことは，自信をもって行うこと。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「善悪の判断，自律，自由と責任」の内容項目のうち，正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

正しいか正しくないかの判断は，幼いときから様々な経験を通して徐々に身に付いていくものである。自らの判断に従って正しいことを行うことにより，清々しい気持ちになり，明るく充実した生活を送ることができる。しかし，悪いことと知りながらも周囲の雰囲気や自分の欲望に流されてしまい，正しいと判断したことを実行できずに，後ろめたさを感じることもある。そのため，自らが正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を身に付けることが大切となる。

子どもたちは，多くの場合，友達が間違った行動をしたときに注意をしたり，よりよいクラスにするために考えたことを友達に伝えたりしている。しかし，友達の視線が気になったり，自分の利益を優先したりして，正しいと判断したことが実行できない場合もしばしば見られる。このような子どもたちが，正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについて考えることにより，正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を養うことができる。

そこで，教材「サッカーボール」を使用する。教材の内容及び価値は，以下のとおりである。

主人公が友達とサッカーをしていた時，友達の蹴ったボールが小さな男の子にぶつかり，男の子はグラウンドに倒れてしまう。主人公は，心配になって男の子に駆け寄り，男の子の無事を確

認するが、他の友達は何事もなかったようにサッカーを続けていた。その様子を見て腹を立てた主人公は夢中でボールに駆け寄ると、ボールを抱えたまま座り込む、という内容である。

ボールを抱えてまでサッカーをする友達を止めた主人公の姿から、子どもたちは正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについての問題意識を高めることができる。また、ボールを抱えたまま友達の顔をじっと見つめている時の主人公の気持ちに着目することは、正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さに気付くことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、5年「自分の心が見ている」での、誰もが自由を保障されるように、自分を律して生活することの大切さについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、3年「勇気がある人とは」において、正しいと判断したことを勇気を出して行動することの大切さについて考える学習をしてきた。この学習で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 正しいと判断したことを勇気を出して行動することで、明るい気持ちで生活することができることを理解してきている。このような子どもたちが、自ら正しいと判断したことに自信をもつことで、正しいと判断した行動ができることを理解できるように、主人公が正しいと判断したことを行った理由を問う学習課題を設定する。
- ② 正しいと判断したことを勇気を出して行動することについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えることができている。このような子どもたちが、正しいと判断したことを自信をもって行うことについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、ボールを抱えてまでサッカーをしている友達を止めた主人公の行為の理由について、最も共感するものを示すネームマグネットを用意する。
- ③ 正しいと判断したことを勇気を出して行動しようとする態度を養ってきている。このような子どもたちが、正しいと判断したことを自信をもって行おうとする態度を養えるように、本時の学習に関わって、「学習して納得する考えが見付かったか」「見付かった考えはこれからの自分の役に立ちそうか」の振り返りの視点を提示し、その理由を記述する学習プリントを用意する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- 1 ねらい サッカーを続ける友達を止めた理由について話し合うことを通して、充実した気持ちで生活することができるように、自らが正しいと判断したことを、自信をもって行おうとする判断力を養う。
- 2 準備 場面絵 ネームマグネット 学習プリント
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題「どうしてボールをかかえてまでサッカーを続ける友達を止めたのだろう」をつかむ。	○本時にねらいとする道徳的価値への方向付けができるように、正しいと判断したことをいつでも行うことの能否を問いかける。

- ・正しいことができない時もあるな。
- ・小さい子が倒れてしまったから、主人公はサッカーボールを抱えこんで、みんながしているサッカーを止めたのだな。
- ・ぼくは主人公と同じようにサッカーは止めないかもしれない。どうしてそこまでしてサッカーをしている友達を止めたのかな。

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・友達が小さい子を放っておいたことは間違いだと伝えないといけない、と思ったからだと思うよ。
- ・友達はサッカーをしているのが楽しかっただろうし、サッカーを途中で止めたらみんなに文句を言われるかもしれないと思ったからじゃないかな。だから、小さい子が倒れていても自分たちからサッカーをやめなかったのだと思うよ。
- ・友達に間違いだと伝えないといけないという理由が一番だと思ってたけれど、確かに、自分が正しいことを伝えられなかったら自分がもやもやしてしまうという理由もあると思うな。
- ・ぼくは正しいと思うことができたときに、行動できてよかったなと思うよ。だって、自分の心がすっきりするし、他の人のためにもなるからね。
- ・みんなの意見を聞いて、ぼくは、主人公は自分の考えが正しいという強い思いをもったからボールを抱えてまで止めたんだと思うよ。それをしなかったら心がもやもやしてしまうしね。

3 これからの自己の生き方への思いや課題について考える。

- ・気持ちよく生活できるから、これからは、自分が正しいと思ったことは、友達や自分の弱い心に流されずにやっていきたいな。

○教材「サッカーボール」の内容を把握できるように、教材の範読の後、登場人物の行為や場面の様子を問いかける。

○正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについての問題意識を高められるように、サッカーを止めた主人公の行為についての感想や疑問を発表するよう促す。

○学習課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、考えを発表するよう促す。

○正しいと判断したことを行うことができない人間の弱さに気付けるように、サッカーをやめなかった友達の気持ちを問いかける。

○正しいと判断したことを自信をもって行うことについて多面的・多角的に考えられるように、サッカーをしている友達を止めた時の主人公の理由で最も共感するものをネームマグネットで示し、その理由を学級全体に伝えるよう促す。

○正しいと判断したことを自信をもって行うことの良い点について理解できるように、自分が正しいと判断したことを行えた時の気持ちを問いかける。

○正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さに気付けるように、学習課題に対する考えを再度問いかける。

評価の視点

正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを、発言したり記述したりしている。

<発言・学習プリント>

○よりよい自己の生き方を実現しようとする思いを明確にできるように、振り返りの視点を提示し、理由を学習プリントに記述するよう促す。

○これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてたことを賞賛する。

指導計画（全1時間）

ねらい	サッカーを続ける友達を止めた理由について話し合うことを通して、充実した気持ちで生活することができるように、自らが正しいと判断したことを、自信をもって行おうとする判断力を養う。	
教材	サッカーボール	
主題構成	導入では、サッカーをする友達を止めた主人公の行為についての感想や疑問を話し合うことで、子どもたちは正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについての問題意識を高めることができる。展開では、ボールを抱えてまでサッカーをしている友達を止めた時の主人公の理由に着目して考えることで、正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さに気付くことができる。	
過程	学習活動	評価の視点<評価方法>
導入	○教材を読み、学習課題「どうしてボールをかかえてまでサッカーを続ける友達を止めたのだろう」をつかむ。	
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。	◇正しいと判断したことを自信をもって行うことの大切さについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたりしたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント>
終末	○これからの自己の生き方への思いや課題について考える。	
他の教育活動との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、正しいと判断したことを行う場面 例：友達が間違っ行動をしたときに注意をする場面 自分が間違っ行動をしたときに友達に謝る場面 教室や廊下にゴミが落ちていたときに拾う場面 体育等で自分のチームの負けを認め相手のチームの勝利を讃える場面 帰りの会等でよりよいクラスにするために考えたことを友達に伝える場面 	